

広報ほんべつ

本別

いいひと いいまち いきいきほんべつ

HONBETSU

Nov 2013.11
No.1021



表紙 本別高等学校伝統行事
第32回交通安全強歩大会

平成25年度各賞が決まりました

本別町スポーツ賞

町スポーツ賞に七田

章さん

文化奨励賞、スポーツ奨励賞に7個人・2団体

今年度のスポーツ賞・スポーツ奨励賞・文化奨励賞が、10月21日の町教育委員会で決定しました。受賞者は次の通りです。

スポーツ賞

【功労の部】

七田 章さん
(北5丁目)



昭和42年本別弓道連盟に入会し、昭和56年9月弓道5段合格、長年にわたる選手として活躍され道民スポーツ大会、北海道弓道選手権大会等、数々の大会において入賞するなど実績を残している。
その傍ら長年連盟役員として運営に携わり、平成17年から副会長、平成23年には会長に就任し、現在に至る。上部団体では、十勝地区弓道連盟や北海道東部地区弓道連盟の評議員を務めているほか、本別町スポーツ指導員や本別町体育協合理事を担っており、地域のスポーツ振興に寄与している。
また、平成21年から外部指導者として本別高等学校弓道部に携わり、毎年全道大会へ導くその指導力は高い評価を得ており、青少年の健全育成に寄与するところである。

スポーツ奨励賞

個人

【優秀選手】
中野 翔護さん
(南4丁目)

さらに、初心者教室を開催するなど広く弓道の普及発展に尽力され、本町のスポーツ振興に寄与された功績は誠に顕著である。

金山 翔さん
(北6丁目)

第59回北海道高等学校弓道競技選手権大会兼第58回全国高等学校弓道競技選手権大会北海道予選会
男子個人 第3位

黒田 みさとさん
(柏木町)

第48回北海道高等学校弓道競技選手権大会十勝支部大会 女子個人 優勝

石山 成美さん
(栄町)

第59回全十勝弓道選手権大会 高校個人の部 優勝

野崎 隼杜さん
(北8丁目)

第58回十勝高等学校新人剣道大会兼第32回北海道高等学校新人剣道大会十勝支部予選会 男子個人 優勝

団体

アコライズ

第26回全十勝年代別ミニバレー大会 女子の部30代 優勝

【出場選手】
吉川亜子・泉野範恵・笹森留美子・山谷法子

文化奨励賞

個人

荒 光子さん
(美里別東下1)

昭和39年、本別公民館短歌会に入会し、同年、全国的な組織である短歌誌「原始林」にも所属され、以来一度の休詠もなく投稿されている。また、本

北海道本別高等学校弓道部

(顧問：中川望都子)

第59回全十勝弓道選手権大会

第43回北海道東部地区弓道選手権大会兼第68回国民体育大会東部地区代表選手権大会 団体戦男子 準優勝
第48回北海道高等学校弓道競技選手権大会十勝支部大会 団体戦男子 優勝

【出場選手】
中野翔護・佐々木晋・鈴木絢也・高橋伸也・齊藤優輝・金山翔・平侑大・石山成美・加納眞・丸山未来

藤川 一三さん
(柏木町)

町歌壇の郷土歌集「ほんべつ」に編集委員として携わり、平成2年には自らの歌集「からまつ」を出版された。
本別町民文芸「沖積土」にも昭和45年創刊当初から現在まで、毎年のように投稿が続けられており、また本別町文化祭へも絶やせず出展されている。
平成5年からは全十勝短歌大会で活躍。短歌への情熱で練り上げられる活動は高い評価を受けている。これらの活動は、本町の文芸活動に活力を与えるものであり、本町の文化振興に寄与した功績は誠に大きなものがある。

平成3年、本別義経太鼓保存会の創立当初から中心的な役割を担い、平成6年には子供たちの活動組織である「牛若組」を立ち上げるなど会の発展と本別義経太鼓の普及と継承に尽力されている。平成19年、同会長に就任され、常に研さんと意欲的な活動を続けられ、平成20年同会の本別町文化奨励賞受賞に貢献。

町のイベント活動から、十勝管内外の行事にも積極的に参加し、本町の郷土芸能として町民の心に深く根をおろすとともに、青少年の健全育成をはじめとした幅広い活動は高い評価を受けている。日々活動を通じて一心に取り組む姿は、他の模範となるものであり、本町の文化振興に寄与した功績は誠に大きなものがある。

授賞式は11月3日(文化の日)
午前10時30分から 中央公民館 大ホールで行われます



軽快なリズムで

9/21

東日本大震災復興支援本別町音楽祭（町文化協会、中央公民館主催）が9月21日、中央公民館で開かれました。出演した町内で音楽活動する6団体、1個人の総勢81人は、軽快なリズムで吹奏楽やピアノ、バンド演奏などを披露。演奏後には、会場を訪れた約320人の観客から大きな拍手が送られました。また、会場入り口に設置された募金箱には、震災復興を支援する義援金10,591円が集まりました。



チーム一丸で 優勝目指す

9/28

十勝毎日新聞社本別支局杯争奪選抜少年野球本別大会（十勝毎日新聞社本別支局、本別野球少年団育成会主催）が9月28日、南球場と弥生球場で開催されました。大会には、町内外から8チーム約130人が出場。選手らは、父母らの応援を背に、チーム一丸となり優勝目指し熱戦を繰り広げました。成績は次の通り。

優勝＝本別レッズ
準優勝＝土幌ファイターズ
第3位＝仙美里グレートフレンズ



優勝した本別レッズ

町内中学生 意見発表大会

9/24

本別町中学生意見発表大会（町教育振興会主催＝帰山孝美会長）が9月24日、中央公民館で開催されました。大会には、町内3中学校の代表8人が臨み、それぞれが豊かな表現力と堂々とした態度で発表しました。厳正な審査の結果、「私の妹」をテーマに、障がいのある妹に対する複雑な思いや、周囲の人への感謝の気持ちなどを発表した宮野真衣さん（勇足中3年）が最優秀賞を受賞。11月9日に幕別町で開かれる十勝大会への出場権を手に入れました。宮野さんは、「いろんな人に、妹のことを知ってもらいたい。十勝大会では最優秀賞をねらいたい」と力強く抱負を語ってくれました。午前中には、同英語暗唱大会も実施され、貝沼朱音さん（仙美里中3年）と内田亜美さん（同2年）が町内中学生を代表して、十勝大会に出場します。



最優秀賞の宮野真衣さん（前列右から2人目）

芸術、文化、スポーツの秋。町内では、さまざまな大会やイベントが開かれ、子供から高齢者までたくさんの人が活動の成果を披露しました。

この紙面では、そんな頑張っている皆さんの姿を紹介します。あなたも、この秋から自分のために何か始めてみませんか。



スポーツ
sports
文化
culture
芸術
art



線路跡を歩く

10/14

平成18年4月20日に最後の日を迎えた「ふるさと銀河線」の線路跡を歩く、ふるさと銀河線望郷トレイル（本別町・NPOコミュニティシンクタンクあうるずほか主催）が10月14日、旧岡女堂駅-旧仙美里駅間約9kmで実施されました。町内外から参加した4歳から84歳までの約80人は、駅長姿で登場した元国鉄マンの高橋正夫町長に切符を切られ旧岡女堂駅を出発。参加者らは、当時線路だった面影が残る道を一步一步進み、道の駅で昼食、茶屋で休憩後、拍手で迎えられながら旧仙美里駅に到着しました。



日ごろの運動不足を解消

10/6

第42回本別町高齢者運動会（本別町社会福祉協議会主催）が10月6日、町体育館で開催されました。町内10老人クラブから参加した124人は、4チームに分かれ「ジャンケンリレー」「いくつ入るかな」など7種目に挑戦し、日ごろの運動不足を解消しながら爽やかな汗を流しました。



本別高等学校交通安全強歩大会

10/4

本別高等学校（児玉佳範校長、171人）の伝統行事、第32回交通安全強歩大会が10月4日に開かれ、男子が42.195km、女子が30kmのコースに挑みました。限界への挑戦と交通安全啓発を目的に行われているもので、参加した生徒らは、交通安全標語の書かれたゼッケンを背中に着け、道行くドライバーや沿道の人に安全運転などを訴えながらゴールを目指しました。



ド迫力の走行

9/29

十勝5市町で展開される、国際ラリー大会「ラリー北海道」が9月29日、上押帯-活込間に設定された10.85kmのスペシャルステージで実施されました。ラリーカーは、道内外から訪れた観戦客の前を、爆音とともに土煙を巻き上げるド迫力の走行を見せました。



ぜいたくな秋のひととき

10/19

「ごんぎつね」など国語の教科書でおなじみの児童文学者、新美南吉生誕100年を記念した、ぶっくる朗読会&レトロ・レコードを聴く会（図書館・歴史民俗資料館主催）が10月19日、図書館で開かれました。会場を訪れた親子連れなど24人は、臨時営業したぶっくるカフェのコーヒーを味わいながら、同会員が朗読する新美作品に耳を傾けたほか、なつかしの歌謡曲や童謡などのレコードを鑑賞するなど、ぜいたくな秋のひとときを過ごしました。



スポーツを楽しむ

10/12

体育の日を記念した第1回義経の里スポーツフェスティバル（本別町・本別町教育委員会主催）が10月12日、本別公園で開催されました。この日は、天候にも恵まれ、公園には幼児から大人まで約200人が集合。参加者らは、園内で催された得点を競うゲームラリーコーナーや秋の本別公園を散策するウォーキング、マラソンなど自分に合わせたスポーツを楽しみました。



新人チームで全力プレー

10/5

本別ライオンズクラブ（伊藤巖会長）による、第33回東北部方面少年野球新人戦大会が10月5日、南球場と弥生球場で開催され、本別・足寄・陸別から5年生以下で編成された5チーム約70人が出場しました。試合はトーナメント方式で争われ、選手らは全力プレーで白熱したゲームを展開しました。成績は次の通り。
優勝=本別レッズ
準優勝=陸別レッドイーグルス



本別中学校強歩大会

10/3

本別中学校（山口弘康校長、137人）強歩大会が10月3日に実施されました。コースは、池田町大森会館から本別中学校までの18.8km。大会には、来年度本別中学校へ統合する仙美里中学校（式見祝賀校長、19人）の生徒1、2年生9人も加わり、総勢146人が出場しました。走り組（83人）と歩き組（63人）に分かれて元気よくスタートした生徒らは、思い思いのペースでゴールを目指し爽やかな汗を流しました。





本別カトリック幼稚園園児

田西喜代本別町交通安全母の会会長

道警音楽隊の演奏会

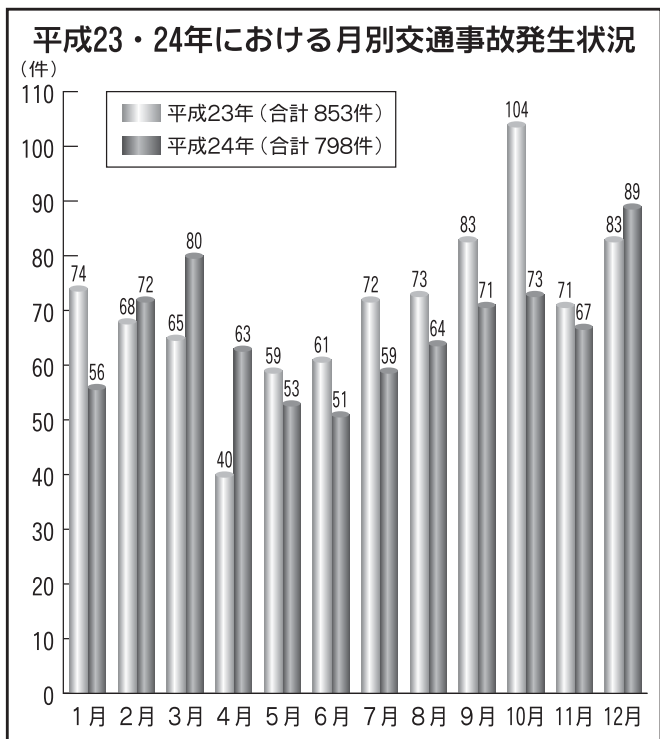
道警音楽隊のパレード

住民大会参加者



秋の交通安全運動

日没時間の早まりによる視界不良や、収穫期による大型車の交通量増加に伴い、交通事故が増えるといわれる秋。
 町内では、悲惨な事故を一つでもなくしようと、秋の全国交通安全運動（9月21日～30日）期間に合わせ、各種団体や小中学生が交通安全集会や交通安全キャンペーンを行い、ドライバーや歩行者へ交通ルールの徹底を呼び掛けました。
 これから冬に向け、積雪や凍結など道路状況も悪くなるのが予想されます。町民一人ひとりが交通ルールを今一度確認し、悲しい事故のない安全安心な社会を目指しましょう。



本別町交通安全母の会35周年記念事業 本別町交通安全住民大会及び 道警音楽隊パレード・演奏会

本別町交通安全母の会（田西喜代会長）の発足35周年を記念した本別町交通安全住民大会及び道警音楽隊パレード・演奏会が9月21日、役場前駐車場と町体育館で開かれ、町内の自治会や各種団体などから参加した約250人が交通安全を誓いました。

無事故を願い、心新たに

住民大会では、田西会長が「本別町から悲惨な交通事故がなくなるようこれまで活動してきました。この集いを機に、今後も事故を起こさないよう心新たにしてください」とあいさつした後、高橋正夫町長、野村泰則本別警察署長が祝辞を述べました。引き続き、交通安全作文コンクールの授賞式が行われ、最優秀賞および優秀賞を授賞した4人の児童に高橋町長から表彰状と記念品が手渡され、最後は、本別カトリック幼稚園の齊藤まりちゃん、佐久間彩羽ちゃん、田川穂佳ちゃんの3人と市村純一本別地区安全運転管理者協会会長が、交通ルールの遵守と運転マナーの向上を力強く宣言。

大会終了後には、道警音楽隊およびカラーガード隊、住民大会の参加者が国道242号線や銀河通り約1.2キロをパレードし、ドライバーや歩行者へ交通安全を呼び掛けたほか、町体育館では同音楽隊による演奏会も開催されました。

※交通安全作文コンクールの最優秀賞受賞者の作文を11ページで紹介しています

交通安全キャンペーン



警友会十勝支部本別地区



本別ライオンズクラブ

会員・児童・生徒が安全運転を訴える



仙美里小学校5・6年生、仙美里中学校全校生徒

警友会十勝支部本別地区（坂井久恵地区長）会員8人が9月24日、本別ライオンズクラブ（伊藤巖会長）会員20人が9月26日、北8丁目ふれあい公園で、9月27日には仙美里小学校5・6年生と仙美里中学校全校生徒計30人が、国道242号線沿いで交通安全キャンペーンを実施しました。各会員・児童・生徒らは、交通安全啓発チラシやベクトボトルのお茶のほか、メッセージカードなどをドライバーへ手渡ししながら、安全運転を訴えました。

交通安全タスキリレー

3町で交通安全を願う

本別町交通安全協会（前田進会長）主催による、交通安全タスキリレーが9月24日、陸別・足寄・本別の3町で行われ、今年度は陸別をスタートしたタスキが足寄から本別へ引き継がれました。北8丁目ふれあい公園で行われた引き継ぎ式では、長谷川隆司同協会副会長が交通安全決意表明を読み上げた後、会員15人と柏木町交通防災防犯部（北山信孝部長）部員18人が、交通安全の願いが込められたタスキを胸に道行くドライバーへ安全運転を呼び掛けました。



交通安全決意表明



本別町交通安全協会



柏木町交通防災防犯部

高齢者交通安全・防犯勉強会

自分の身は自分で守る

町交通安全母の会（田西喜代会長）による高齢者交通安全・防犯勉強会が10月4日、中央公民館で開催されました。同勉強会は、本別警察署（野村泰則署長）の協力で実施され、参加した町内の高齢者など約40人は、講話や体験型運転講習のほか、振り込め詐欺等防止の寸劇を通して自らの身を守る知識を深めました。



高齢者交通安全・防犯勉強会

交通安全作文コンクール



山下さん 岩崎さん 山西さん 岡本さん

交通安全作文コンクールには、町内3小学校から115点が応募され、最優秀賞2人、優秀賞2人が選ばれました。交通安全住民大会で行われた授賞式では、表彰状を受け取った後、最優秀賞の2人がそれぞれの作文を読み上げました。受賞者は次の通り。

- 最優秀賞
岡本 玲 奈さん（仙美里小6年）
山西 麻生権さん（本別中央小6年）
優秀賞
岩崎 雄斗さん（本別中央小5年）
山下 弓葵乃さん（勇足小5年）

私の思う交通安全

仙美里小学校6年 岡本 玲 奈

みなさんは交通安全に気をつけたり、守ったりしていますか。私も親から、言われたりしています。小さいころからよく、言われていたのが、「シートベルトをしない」とや「右、左を見なさい」などです。今思うと、これらはとても重要な事でした。テレビなどでみると、シートベルトをしていないだけで、とてもちがいがあつたり左右を見ないだけで事故がおきていたり。少しのことをしないで大きな事故がおきてしまいます。

親に、交通安全でどんなことに気をつけてほしいのか、聞いてみました。すると、「車の多い所でも信号に気をつけたり、自転車などに乗った時はルールを守ってもらいたい」と言っていました。ですが、「気をつけて」と言われていても、自分自身に、気をつけようという気持ちがないと、意味がないと思います。

私が交通安全について、気をつけなければならぬと思います。それは、まず、後部座席でも必ずシートベルトをすることです。ほかに人の車に乗ると、後ろの人は、シートベルトをしなくてはいけません。青信号でも、必ず、右、左を見るという事です。テレビなどでもありますが赤信号になって走っていき車にひかれてしまうなど、歩行者が気をつけていても運転手が気をつけなければ、いけないこともあります。そしてもう一つは、歩道で人が歩いている時は、自転車からおりて、おしていくことです。

町であるイベントなどで、歩道を歩いているのに、自転車でムリやり通っていく人などを見ていると、歩いている人はめいわくそにしているし、自転車にぶつかりそうになっている人もいて、注意したくなります。そういう人には、自転車の乗り方を一回見直してほしいと思います。

最後にどうして事故が起ってしまうのか私の思ったことを書きます。歩行者、または運転手が油断しているか、両方が油断しているせいで起こると思います。常に、けいこいしながら行動することが大切だと思います。

交通安全の今と車の安全

本別中央小学校6年 山西 麻生権

日々街中で見る車の群れ。私はいつも思うことがあります。「どうしてこんなにスピードを出している車がいるのに、警察は見えないし、注意しにこないのだろう」。スピードの出すぎは、事故につながり、どんなに急いでいても事故にあつたつればもともともありません。先日、母の自動車免許の切りかえて、自動車学校に行つた時、「表」がありました。前年比で、事故数をカウントしているものでした。よくよく見れば、となりの死者数は減少しているのに、事故数は前年比から増加していました。

我が町、本別でも「無事故無死亡」をカウントしていますが、早い時には二百日程度しか続かず、それだけひんぱんに事故は起きるものなのかと、少し考えました。標識だって、信号だって、もとはといえば、「足止めさせるため」ではなく、「みんなの安全を守るため」につくられたものです。その活動を無駄にし、事故にあい、死亡してしまう事もあります。過去におかした小さなあやまちを、やがて大きな事故につながり、そして、大切なものをうばっていくと思います。だからこそ、スピードダウン、デイルイト運動、無理な追いこしはやめることなどは、とても大切なことだと思います。

私は、事故を完全になくすのは、無理だと思います。ですが、交通安全を守ること、限りなく0（ゼロ）に近い数にすることができます。

今では、車にその機能（スマートアシスト機能など）がつき、乗車する人は機能に頼って、自ら行わないこともあると思います。結局は交通（歩く人）する人だけではない、車に乗る人も、重要なことだと思います。私が思うに、人と人とのつながりが、交通安全なのではないかなー、と思いました。

『地方公共団体の財政の健全化に関する法律』 に基づく健全化判断比率等を公表します

町のホームページ <http://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/> でもご覧になれます

『地方公共団体の
財政の健全化に関する法律』
の規定により毎年度地方公共団体の
決算状況を連結ベースで財政分析する、
健全化判断比率等の算定および
公表が義務付けられています。

地方公共団体の財政の 健全化に関する法律とは

これまでの自治体再建法制度では、地方公共団体の普通会計において赤字額が標準財政規模の20%（都道府県は5%）を超えるといきなりレッドカードが出て財政再建団体となり、イエロークードともいえる注意喚起の段階がありませんでした。また、特別会計や企業会計にいくら累積赤字があっても財政再建団体とはなりません。

この法律では、「早期健全化」と「財政再生」の二段階で財政悪化をチェックするとともに、特別会計や企業会計もあわせて連結決算により地方公共団体の財政状況をより明らかにしようとするものです。

- 財政再生団体（レッドカード）の前に、早期健全化団体（イエロークード）の段階が設けられました
- 地方公共団体の本体に公営企業・一部事務組合・第三セクターなども加えて判断するようになりました
- 単年度の現金収支に加えて、過去からの累積に基づく基準ができました（将来負担比率）
- 公営企業の経営に関して、経営の健全化を促す基準ができました（資金不足比率）



早期健全化団体になると

健全化判断比率指標のいずれかが早期健全化基準を上回ると、財政健全化計画の策定（議会の議決）、外部監査の要求が義務付けられ、計画の実施状況を毎年度議会に公表し、早期健全化が著しく困難と認められるときは知事から必要な勧告が行われます。
（平成20年度決算から適用）

財政再生団体になると

健全化判断比率指標のいずれかが財政再生基準を上回ると、財政再生計画の策定（議会の議決）、外部監査要求の義務付け、計画の実施状況の報告、公表に加え、財政再生計画を総務大臣に協議し、同意を求めなくてはなりません（※1）。また、財政運営が計画に適合しないと認められる場合等において、予算の変更等が勧告されます。
（平成20年度決算から適用）

※1 同意がなければ、災害復旧事業費等を除く地方債の起債が制限されます

経営健全化基準について

早期健全化基準に相当するもので、各公営企業会計の資金不足比率が経営健全化基準を上回れば経営健全化計画の策定が義務付けられます。
（平成20年度決算から適用）

健全化比率の 一般家庭でのイメージ

私たちの1年間の家計に例えると、日々の生活における収入と支出の状況や、現在の借入金と貯金のバランスを比率化したイメージとなります。

例えば、二世帯住宅で暮らすAさん夫婦世帯（一般会計、息子さん夫婦世帯（企業会計）を本別町に例えた場合、

◆実質赤字比率

Aさん夫婦世帯の1年間の収入と支出の結果、赤字だった場合、その赤字額が家計規模に対してどの位の割合だったのかを表します。

◆連結実質赤字比率

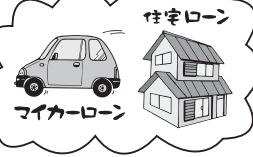
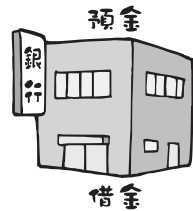
Aさん夫婦世帯、息子さん夫婦世帯の1年間の収入と支出の結果、赤字だった場合、その赤字額がAさん夫婦世帯の家計の規模に対してどの位の割合だったのかを表します。

◆実質公債費比率

家族全員の1年間の住宅取得や自動車購入などの借入金返済額のうち、Aさん夫婦世帯が負担した返済額が、Aさん夫婦世帯の家計規模に対してどの位の割合だったのかを表します。

◆将来負担比率

家族全員の住宅取得や自動車購入などの借入金残高など、Aさん夫婦世帯が将来負担を予定している費用から貯金を差引いた額が、Aさん夫婦世帯の家計規模に対してどの位の割合だったのかを表します。



平成24年度決算に基づく本別町の 健全化判断比率および資金不足比率について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（平成19年法律第94号）第3条第1項および第22条第1項の規定により、本別町における平成24年度決算に基づく健全化判断比率および資金不足比率について公表します。

1 健全化判断比率

平成24年度本別町各会計の決算に基づき健全化判断比率を算定したところ、下表のとおり、いずれの指標についても早期健全化基準、財政再生基準を下回りました。

指 標	本 別 町		早期健全化基準	財政再生基準
	平成24年度	平成23年度		
実質赤字比率	- %	- %	15.0%	20.0%
連結実質赤字比率	- %	- %	20.0%	30.0%
実質公債費比率	10.8%	12.0%	25.0%	35.0%
将来負担比率	25.4%	36.8%	350.0%	

※実質赤字比率または連結実質赤字比率は、それぞれ赤字額がないため「-」で表示しています

2 資金不足比率

各公営企業会計における資金不足比率については、平成24年度決算において資金不足を生じた公営企業がないため、該当ありません。

会 計 の 名 称	本 別 町		経営健全化 基 準
	平成24年度	平成23年度	
水道事業会計	- %	- %	20.0%
国民健康保険病院事業会計	- %	- %	
簡易水道特別会計	- %	- %	
公共下水道特別会計	- %	- %	

※資金不足比率は、資金不足額がないため、「-」で表示しています

○健全化判断比率および資金不足比率については、監査委員の審査に付した後、その意見を付して、10月1日開会の第3回定例町議会に報告いたしました。

各学校の手作りページ

HELLO 勇足中学校

勇足中学校教育目標

(知) 創造性豊かで高い知性を養う
 (徳) 豊かな人間性を育てる
 (体) 強靱で粘り強い体を鍛える

本年度も地域・保護者の皆様のご協力をいただきながら、小規模校の特性を生かした授業や学校行事を実施し、個に応じたきめ細やかな教育活動を展開しています。



地域ならだけではの教育活動！
地域の皆様へ感謝！



EDS技術の普及・啓発に関する

基本合意書締結



町とイー・ディ・エス研究所（群馬県前橋市、石井幸男代表取締役所長）による、森林資源の新たな利活用を目的としたEDS技術の普及・啓発に関する基本合意書の締結式が10月2日、役場で行われました。

EDS技術を生かし、林業再生を目指す

国内の大手住宅建材メーカーも同席した締結式では、石井所長が「本別町の林業再生への情熱に賛同した。ここにある豊かな木材を生かせるよう妥協することなく協力していきたい」と決意を語り、将来的には町内にEDS加工の炉を建設する計画があることも発表。高橋正夫町長は「北海道全体で林業の再生を目指していけるよう、十勝から新しい技術を発信していきたい」と述べました。締結式終了後には第2回EDSカラマツ利活用研究会（委員長＝宮島慎吾 武蔵野美術大学基礎デザイン学科主任教授）が開催され、加工した木材を窓枠や建具として製品化し、住宅建材メーカーや工務店等と連携していく地域林業再生プロジェクトについても説明がありました。この後、同会のメンバーらはEDS加工したカラマツ材を使って改修した本別公園内御所を視察し、EDS技術のさらなる可能性に期待を高めました。



(上) 第2回EDSカラマツ利活用研究会会議の様子
 (下) 本別公園内御所の視察

EDS加工とは

木材に一定の熱を加えることで、木材内部の組織を改良し有効材に変える技術のこと。カラマツ材の特徴である曲がる、反るなどの欠点も除去することが可能であり、防虫・防カビのほか、やにも内部で固められ、強度も加工前と比べ倍近くになります。

ボランティアに汗 10 7

10月7日に北海道ロードメンテナンス（本社：札幌市、大野末治代表取締役）の社員8人が、ボランティアで道路脇の環境整備作業に汗を流しました。これは、地域貢献活動の一環として行われたもので、町内錦町から共栄までの数キロに及ぶ旧線跡地周辺の草などが刈られ、とてもきれいになりました。



いざという時に備えて 9 29

栄町自治会（高木幸夫会長）による大規模地震を想定した、自主防災避難訓練が9月29日、同自治会で行われました。訓練に参加した同自治会員77人は栄公園に避難した後、毛布で作った応急担架によるけが人の搬送や、バケツリレーによる初期消火訓練などを体験し、いざという時に備えた防災知識を深めました。



管内ボランティア活動者が集う 9 29

十勝管内で活躍するボランティア活動者が一堂に集う、ボランティアミニ愛ランド（実行委員会主催）が9月29日、中央公民館で開催されました。毎年管内市町村持ち回りで実施されているもので、この日は実践発表や情報交換会・分科会、レクリエーションなどを通して、参加した約400人が親睦と交流を深めました。



ライン引きで利便性確保 9 18

シンレキ（高荷三千雄代表取締役）の従業員3人が9月18日、ゲンキッチン南側駐車場の駐車枠のライン引きを実施しました。これは地域貢献活動の一環としてボランティアで行われたもので、きれいに白線が引かれたことで、同施設等利用者の利便性が向上しました。



ジャイカ研修生来町 10 9

JICA（独立行政法人国際協力機構）研修の一環で来町した、中南米8か国からの研修生16人が10月9日、役場を訪れ高橋正夫町長を表敬訪問しました。この研修は、自国の活力ある農村振興とともに生活改善の定着・普及を目指すもので、高橋町長の歓迎のあいさつの後、研修生代表のカルロスさんが、「この研修を通して学んだことを、自国発展のために生かしたい」とお礼を述べました。



自治会長が料理作り 10 4

町自治会連合会中央地区連合会（三枝金作会長）の料理講習会が10月4日、健康管理センターで開かれました。健康づくりなどを目的に開催されたこの講習会には、市街地区の自治会長12人が参加。食生活改善推進員3人の指導のもと、「なめたけの炊き込みご飯」「麻婆豆腐」など4品を調理し、完成した料理は全員でおいしくいただきました。



おやじも頑張る 9 29

本別中学校（山口弘康校長、137人）に通う生徒の父親で組織される義経の会（岡田清信会長）が9月29日、同校で開かれた文化祭を盛り上げようと、今年も焼き鳥やフライドポテト、フランクフルトなどの販売コーナーを設置しました。昼時になるとコーナー前には大勢の生徒や保護者が訪れ、にぎわいを見せました。



家族と自分を見つめ直す時間 9 27

家庭教育支援事業「なかよし」育児ママのためのリフレッシュ講座が9月27日、健康管理センターで開かれました。この講座は4回のシリーズで行われ、1回目に参加した10人のママは、家族や自分を見つめ直すための「聞くこと、話すこと」について学びながら、ストレッチやマッサージで交流し、穏やかなひとときを過ごしました。



副町長に 砂原 勝 氏を再任 10 9

10月9日に開催された本別町議会第3回定例会で、副町長を選任する議案が提出され、砂原勝氏が副町長に再任されました。砂原氏の選任は3回目、任期は平成25年10月30日から平成29年10月29日までの4年間です。



へき地、複式教育の 充実を目指して 10 11

全道へき地複式教育研究大会十勝プレ大会（北海道へき地・複式教育研究連盟主催）が10月11日、仙美里小学校で開催されました。来年度の十勝開催成功に向けた取り組みで、十勝管内9会場で行われ、同校では算数の公開授業や研究発表などを実施。十勝管内外から参加した約60人の教諭らは、道内へき地、複式教育のさらなる充実を目指し研究を重ねました。



緑豊かな街づくりを目指して 10 12

緑豊かな街づくりを目指すトヨタふれあいグリーンキャンペーンの苗木贈呈式が10月12日、本別公園ステージで実施され、帯広トヨペットの若林剛社長が砂原勝副町長にエゾムラサキツツジの苗木70本の目録を手渡しました。同キャンペーンは、地域に根ざした社会貢献事業の一環として全国のトヨペットとトヨタ自動車が共同で行っている取り組み。苗木は、ステージ前広場や園路脇にきれいに植えられました。



火災予防訴え、パレード 10 15

秋の全道火災予防運動（10月15日～31日）初日の10月15日、防火パレードが町内で行われました。高橋正夫町長が「無火災のため、予消防活動に励んでください」とあいさつした後、消防車両9台と本別町危険物安全協会の車両8台の計17台が消防署前を出発し、市街地約5キロを走行しながら火災予防を訴えました。



女性消防団員が 防火を呼び掛け 10 17・18

本別消防団（遠藤利之団長）の女性消防団員による65歳以上独り暮らしの人を対象とした防火訪問が10月17、18日の2日間、町内で行われました。これは、秋の全道火災予防運動に合わせた取り組みで、女性消防団員は本別消防署員とともに町内4地区17世帯を訪問。火災警報器の設置状況を確認したほか、防火啓発チラシを手渡ししながら、「何かあればいつでも連絡してください」などと呼び掛けました。



農畜産物を格安販売 10 19

農大市が10月19日、北海道立農業大学校（加藤和彦校長）で開催されました。同校生徒が丹精込めて育てたジャガイモや豆など13品目の農産物と和牛肉が格安で販売されたほか、仙美里ヶ丘ブランドのアイスクリームやチーズなどの加工品も多数並び、早朝から詰め掛けた多くの来場者でにぎわいました。



自治大学校へ派遣 10 21

総務課三品正哉主査（44）が10月21日、研修のため自治大学校（東京都）へ派遣されました。研修では、法律や政策など行政執務に必要な知識を学びます。研修期間は12月27日までです。



終活の大切さ学ぶ 10 23

本別町老人クラブ連合会と本別町、本別町教育委員会が連携した、十勝東北部老連ブロック研修会・本別町成人講座が10月23日、中央公民館で開催されました。この日は、「終活をライフワークに」をテーマに家系図探究社の松浦波雄代表が講演。東北部3町から参加した約100人は、残された家族のために、自分の想いや生きた証を伝えることの大切さについて学びました。この他、東日本大震災を風化させないために、震災で被災し、復興を続ける宮城県南三陸町の今を映したビデオも上映されました。



情報を広報電算担当へお寄せください ☎22-8121

国民年金 コーナー

年金受給者のみなさんへ
『扶養親族等申告書』は期限までに提出しましょう

その139

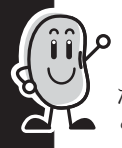
老齢や退職を支給事由とする年金は、所得税および復興特別所得税の課税対象とされています（障害年金・遺族年金は課税されません）。
課税対象となる受給者には、毎年11月上旬までに日本年金機構から扶養親族等申告書が送付されますので、12月2日の提出期限までに必ず提出してください。
この申告により、翌年中に受けられる年金にかかる税額が決まります。もし提出を忘れると各種控除が受けられず、所得税額が多くなる場合がありますので、ご注意ください。

なお、年金以外に収入のある人は確定申告が必要です。
平成26年分「扶養親族等申告書」が送付される人

年齢	年金額
65歳未満	年金額が108万円以上
65歳以上	年金額が158万円以上

こんなときは届け出を

- 年金を受給中に次のような変更があった場合は、届け出が必要となります。必要な書類などを確認の上、必ず届け出をしてください。
- 氏名を変更した
- 住所や年金の受け取り先を変更した
- 年金を受けている人が死亡した
- 2つ以上の年金を受ける権利ができた など



詳しくは
住民課戸籍年金担当へ
☎22-8128

未来に輝く子どもたち

本別町の未来を担うかわいい星たちです。お父さん、お母さんのたくさんのお愛に包まれてすくすく元気に育ってね！



南2丁目
大河内 昭 (朝子ママ)



柏木町
桐山 音果 (美香ママ)



北3丁目
阿部 香音 (玲奈ママ)



弥生町
鈴木 龍音 (奈央ママ)



北8丁目
羽賀 心美 (友美ママ)

※写真は本人に了解を得た上で掲載しています

みんなの健康

351



風疹は「3日はしか」と言われるようにその症状は軽症ですが、一部に血小板減少性紫斑病などの合併症があるので軽視できません。しかも妊婦が風疹にかかると胎児にウイルスが感染して、難聴、心疾患、白内障、精神運動発達遅滞のいわゆる先天性風疹症候群(CRS)児が出生する可能性が高くなります。国立感染症研究所は先天性風疹症候群の報告数が昨年秋以降で19人(9月30日現在)、今後ピークを迎える可能性がありますがある

先天性風疹症候群(CRS)

1 ワクチン接種で予防しよう！

① 妊婦の夫、同居家族など周囲の人
② 10代後半から40代の女性(特に妊娠の可能性の高い者)
③ 産後間もない女性
町国保病院では、抗体価接種を行っているため、このため、ワクチン接種を優先にワクチン接種を受けるためには、内科を受診し抗体価を測定する必要があります。ワクチン接種で風疹と先天性風疹症候群を排除しましょう。
※ウイルスなどの抗原に対して出た抗体の量を示す指標
本別町国民健康保険病院
看護師長 山岸広美

と報告しています。1962年から1979年生まれ(現在34歳-51歳)の男性はワクチン接種を受けずに現在に至っています。該当する人は自然感染を受けていなければ免疫がありません。厚生労働省は妊婦を守る観点から、次の人に任意のワクチン接種を検討するよう要請しています。

銀河ホップ・ステップ・ジャンプ

足寄町

第34回足寄町女性のつどい

講演や講座など、楽しい企画で皆さんをお待ちしています。ごなだでも参加できますので、ぜひご来場ください。

11月24日(日)
午前10時

- ところ 足寄町民センター
- 内容 午前10時1開会式
午前10時30分
講座① 美しくなる姿勢講座
「ゆがみ解消ストレッチ
午前10時45分
講座② からだの中から美しく
「食物繊維をこころう！」

陸別町

驚き！おもしろ科学実験2013

実験やミニ講演会など、子どもから大人まで楽しめる内容です。皆さまの来館をお待ちしております。

11月16日(土)

足寄町・陸別町から

午後1時
講演「お化粧で今日も元気に〜」
□が伝授する簡単キレイ技」
講師 岡元美也子さん
(資生堂)「エアリートップス(ヘアリスト)
午後2時30分 閉会式
※赤十字ハザール、特産品販売コーナーも併せて開催します

□ 参加料 無料
□ その他 託児所を設置します。ご希望の方は申し込みください。
昼食(700円)を希望の方は、11月5日(火)までにお申し込みください

□ 申込先・詳細 足寄町教育委員会生涯学習室
☎ 2513188
午後1時〜午後6時
実験コーナー
午後2時〜ミニ講演会
銀河の森天文台(陸別町宇遠別)

□ 内容 実験「彗星の核をつくる」ほか
ミニ講演会
講師 第52次南極地域観測隊
磯野靖子さん
※開館中は、通常観望も行っています
□ 詳細 銀河の森天文台
☎ 2718100

ご寄付ありがとうございます

平成25年9月25日から10月18日

次の通りご寄付をいただきました。紙上をかりて厚くお礼申し上げます。(敬称略)

- ★本別町公共施設等整備基金指定
金 16,737円
……札幌市 社団法人北海道電気通信基盤整備協会
代表清算人 成田雅文
- ★本別町老人ホーム指定
タオル 100本 ……向陽町 高橋吉太郎

- カボチャ 58個 ……活込 三浦 武
- ★本別町国民健康保険病院指定
タオル 20本 ……美里別東下2 太田米夫
タオル 46本 ……東町 久能利幸
タオル 100本 ……北7丁目 森岡 嗣
タオル 25本 ……チエトイ1 野中茂子
タオル 63本 ……美里別西上 井出ヨシ子
タオル 100本 ……北2丁目 有限会社本別葬儀社 取締役社長 坂入 隆
タオル 70本 ……匿名

本のある暮らし 152

「本とつながる 本でつながる」

～図書館と学校図書室の連携～

戸籍のまど

お誕生

9月後半から
10月前半の
届出分

青木 蒼空^{そら}くん 良太^{りょうた}くん 9/11 北8丁目
みほみ^{みほみ}さん

おくやみ

星 茂^{しげ}さん 77歳 9/22 仙美里元町
道下 照子^{てるこ}さん 77歳 9/24 共栄
新津才衛伊^{さいゑい}さん 93歳 9/29 北2丁目
和田藤四郎^{とうしろう}さん 70歳 10/3 美里別西中
砂原太三郎^{たさぶろう}さん 100歳 10/4 南4丁目
前谷清茂^{しみず}さん 82歳 10/6 新町

図書館では、町内の3小学校に「ミニ図書館」を設置し、150冊以上の本を年に3回交換しています。

また、壁新聞「びいんず」で図書館の情報を提供するほか、学級・学年文庫でもリクエストに対応しています。

本別中央小学校では「ブック委員会」が本の貸出当番のほかに、ユニークな活動をしています。10月の委員会では、高学年のブック委員が低学年の皆さんに「絵本の読み聞かせをしよう」と、勉強会を開きました。図書館スタッフが学校へ出向き、交流しながら絵本についてのお話や読み聞かせの実演をしました。

絵本の楽しさを共有できる読み聞かせ、どんどん広がってほしいですね！

絵本についてのお話



新しい本が
いっぱい！

まずは、
楽しんでやって
みよう！



ミニ図書館書架

読み聞かせに挑戦



図書館スタッフのお話を聞く
ブック委員の皆さん



ちよつと
ドキドキ

わたしたちのまち

前月比
人口 7,945人(-11)
男 3,906人(-1)
女 4,039人(-10)
世帯数 3,802戸(-7)
〔9月末日住民基本台帳〕

お問い合わせ先
本別町図書館
(愛称：ぶつくる一丸)
本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112